

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

| 1-1 建物概要 |                    | 1-2 外観 |              |
|----------|--------------------|--------|--------------|
| 建物名称     | (仮称)Walkプロジェクト新築工事 | 階数     | 地上14階,地下4階   |
| 建設地      | 福岡県福岡市博多区博多駅前三丁目1番 | 構造     | RC造          |
| 用途地域     | 商業地域、防火地域          | 平均居住人員 | XX人          |
| 地域区分     | 7地域                | 年間使用時間 | XXX時間/年(想定値) |
| 建物用途     | 事務所,集会所,工場,等       | 評価の段階  | 実施設計段階評価     |
| 竣工年      | 2026年1月 予定         | 評価の実施日 | 2023年9月13日   |
| 敷地面積     | 5,230㎡             | 作成者    | 大成建設         |
| 建築面積     | 5,085㎡             | 確認日    | 2023年9月25日   |
| 延床面積     | 75,780㎡            | 確認者    | 外山健汰         |



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 3.6** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 4.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.3

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.5

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 4.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

| 3 設計上の配慮事項   |   | その他   |
|--|---|---|
| <p><b>総合</b></p> <p>建物自体がより長く良い状態で使い続けられるために必要な機能や、敷地内の屋外環境および周辺環境に関する環境品質の向上にも配慮した計画を行った。</p> <p>また、省エネルギー性の高い外皮及び設備を搭載した建築物であるだけでなく、資源・マテリアル消費の低減や、敷地境界線を越えて地球環境に及ぼす影響を低減する取組みを行うことで、環境負荷低減性に優れた建築計画となるよ</p> |   |   |
| <p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>高い外皮性能や各設備での制御、優れた内装材の採用により、高い居住性を実現し、居住者の健康、快適性、知的生産性を向上させる設計とした。</p>  | <p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>各種仕上げ材や空調換気ダクトの長寿命化を図り、災害時等の機能維持に配慮し耐震クラスAを確保することで、耐用性・信頼性に優れた建築物を実現した。</p> <p>また、空間にゆとりをもたせ、設備スペースにも配慮した設計により、対応性・更新性を確保した。</p> | <p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>立地特性や緑化計画に配慮した。敷地に面する各通りに対し、高・中・低木や壁面緑化を計画。歩行者の憩いとなる歩行空間とした。</p> <p>緑化計画に加え、建築設備に伴う排熱等にも配慮することで、敷地内温熱環境を向上させた。</p> |
| <p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>建築外皮の性能や、建築物の設備における省エネルギー対策について配慮することで、建物外皮の熱負荷抑制・設備システムの高効率化を行い、建築物を運用する際に発生するエネルギー消費を低減させた。</p>   | <p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>省水型機器を採用することで上水使用料の削減を図った。また、強度が高い材料や工法の工夫により材料使用量の削減を図り、LGS工法、OAフロアの採用により部材の再利用可能性向上への取組みを行った。</p>                           | <p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>CO<sub>2</sub>排出削減に貢献する取組をすることで、地球温暖化へ配慮した。</p> <p>また、燃焼機器不使用による大気汚染防止や、駐車スペース等の確保による交通処理負荷抑制を図ることで、地球環境へ配慮した。</p>     |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される